

## 第21期新宿区社会教育委員の会議 第1回定例会 議事要旨

日 時	平成30年3月30日（金）
場 所	教育センター6階 小研修室A
出席者	東委員、山口委員、大塚委員、山下委員、中村委員 横山委員、鶴巻委員、笹井委員、藤後委員
事務局	担当係長、担当主事

### 1 開会のあいさつ

○事務局 それでは、定刻になりましたので、定例会を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中おいでいただきましてありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

### 2 配付資料について

事務局より配付資料の確認

### 3 委員紹介

○事務局 それでは、それぞれの団体の活動の紹介などもしていただきながら委員の自己紹介をお願いします。

#### ○委員

四谷中学校は今年で18年目の学校で、地域協働学校は13年目になりました。歴史は浅いですが、様々な取り組みをしているところです。

#### ○委員

今年は、子どもたちがどのようにしてオリンピックにかかわっていくかということで取り組んでいます。周りの保護者といい連携を取ればと思っています。私はPTAをやっており、職業は狂言師や学力調査の分析等をやっています。

#### ○委員

スクール・コーディネーターが始まって15年経ちますが、その前は青少年委員というものがありました。青少年委員の時は入学式・卒業式の時だけ学校に行っていました。スクール・コーディネーターになってからは、1週間に1回学校に行き先生のお手伝いをしています。子どもたちの若さをもっと楽しんでおります。社会教育委員はかつて委員をやっており、今期で3期目です。

#### ○委員

地域協働学校で学校のため、生徒のために、少しでも学校の負担が減ってほしいとの思いで活動していますが、地域協働学校で先生の負担を増やしているのではないかと心苦しいところもあります。しかし、子どもたちのためになるようにご奉仕させていただいております。

す。

また地域でも育成会の会長をやっており、広く学校の先生や地域のお子様にご協力できればと思っております。加えて、四谷の町会連合会や、四谷広場の運営協議会、地区協議会にもかかわらせていただいています。

### ○委員

大学の教員をしています。新宿区の社会教育委員は18期から委員をやらせていただいておりますが、新宿は様々な面があって、外国籍の方もとても多いですし、人口の集中地域もあるし、古き良き伝統を持った地域もあるし、学校・家庭・地域の連携もユニークでして、勉強させていただいております。

今までの社会教育委員の会議では家庭というプライベートなところに、行政がどのようにかかわるかについて議論をしてきたため、有効な施策を出すことが大変でした。今期についても大変なのかなと思いますが、私も勉強させていただき、いいものにしていければと思います。

### ○委員

今から11年ほど前に小学校に在職していた音楽の先生が退職するにあたって、せっかく今まで育ててきてもらったのだから、なくしてしまうのはもったいないということで、地域で音楽集団を立ち上げました。私は当時から代表としてかかわっています。

中学校から大学生中心の吹奏楽と、小学生から高校生までの合唱団の2つを合わせた集団になっております。団員は減っていますが細々とやっています。聞きに来てくださった方たちのお話を聞くと、心が洗われたと言ってくれる方や、小学校1年生や2年生も上手に歌っているとの声があり、何とか続けられる限り代表を続けています。民生委員としてもお世話になりました。また皆さんと一緒に勉強させてください。よろしく願いいたします。

### ○委員

私自身の専門は臨床心理学の中でもコミュニティの心理学です。その中でも、1つは子育て支援ということで、現在週1回保育園に通って、カウンセラーをしています。もう一つは学校臨床ということでも、スクールカウンセラーをやっておりました。

現在は地域づくりということで、放課後子ども教室のスタッフの研修や地域スポーツの研究をしています。まさにオリンピックが控えておりますので、新宿区でスポーツと日本文化を皆さんと一緒にどのように掘り起こして豊かにできるか、そしてそれをどのように発信できるかというところに興味があります。

### ○委員

新宿区で家庭教育等に関する企画・運営等をやっています。また、子どもが小学校にいた時から図書ボランティアで朝の時間を利用して行う読み聞かせをやっており、子どもの卒業後も地域のメンバーとして水曜日の放課後にお手伝いをしています。

また、東新宿保健センターの0歳児の読み聞かせも参加しています。こちらでは勉強させていただくことばかりですが、家庭教育の立場からということでお話させていただくこと

があると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○委員

若松河田にある集会室をお借りして、毎週水曜日と金曜日に、子どもたちを見守る活動をやっています。今年で7年目になりますが、もともとの始まりは新宿区の子育て支援者養成講座を受講していた子育て中のママたちでやってみないかということで始めました。アットホームな雰囲気でもママさんたちの居場所作りをしています。

新宿子育てメッセについては、個人でスクラップブックングといった手作りアルバムのようなもののワークショップをしていた関係で参加したのが最初です。今年の6月開催の第9回新宿子育てメッセに向けて準備しています。

また、4月からPTAの役員になることになりました。PTAは初めてなので、いろいろ勉強をしていければと思います。社会教育委員としては20期から参加しています。よろしくお願いいたします。

### 4 正副議長の選出

○事務局 それでは、正副議長の選出に移らせていただきます。

(選出)	議長	(拍手にて承認)
	副議長	(拍手にて承認)

### 5 社会教育委員の今期の活動について

#### ○議長

それでは会議に入ります。第19期・20期の振り返りと、第21期の活動予定ということで、これまでどういうところが議論がされていたかということ、事務局の方からお話しいただきたいと思います。

#### ○事務局

社会教育委員は昭和51年から活動して、それぞれの時代に合わせて、学校開放、青少年の健全育成、生涯学習や社会教育のあり方、総合型地域文化・スポーツクラブなどさまざまなテーマで活動をしてきました。第16期・17期・18期では家庭教育やPTAのあり方についてご提言をいただきました。第19期・20期は合わせて、「連携・協働ではぐくむ子どもの未来」としてご提言をいただいております。

第19期では社会教育行政の充実について議論をし、社会教育が様々な部署で行われているということで、それぞれの部署に活動についてのヒアリングを行いました。そして、生まれてから18歳くらいまで区としては様々ななかかわりをしているということについてまとめました。

子どもたちを育てていくために、1つ目に困難を抱えている子どもたちへの支援という視点、2つ目に外国籍の子どもたちへの支援という視点、3つ目に学校・家庭・地域住民の連携・協働という視点で19期はご意見をいただきました。

その3つの視点をもって、20期に連携・協働をさらに推進するための施策について議論としていただきました。本当に情報が必要な人に情報が行き届いていないのではないかと、外国籍の子どもたちと保護者への支援の充実が必要だろうということで、PTA活動の支援を通して、保護者に対する日本文化の理解の促進が望まれること、また外国籍の方々がつづけているコミュニティへの働きかけということも望まれるのではないかとのご意見をいただきました。続いて、地域協働学校運営協議会を活用して、外国籍の子どもたちや困難を抱える子どもたちへの対応もできるのではないかとということや、担い手の問題や課題があるということで地域協働学校の必要性というものについて、地域や保護者の方に広く周知していくことが大切なのではないかという提案もいただいております。

地域の教育力の向上に向けてということで、イベント等についてご意見いただいております。新宿区には多様な文化があり、そこにある町会やボランティアをいかに活性化していくか、そして、このようなコミュニティの活性化が子どもの豊かな成長を実現していくことにつながるのご報告をいただきました。

また、いただいたご意見を教育ビジョンにも反映させていただいております。教育ビジョンでは地域協働学校の認知度が「新宿区区民意識調査」によると2割ということで低い結果でした。一方、学校と地域・保護者が協働で行う活動への関心度については、5割が関心あるということで非常に高いことがわかっています。また、学校・地域・保護者が協働で行う活動意向については参加したい方が3割いるとのことでした。平成30年度からは、地域協働学校の充実ということで、学校運営協議会と地域の連絡会の実施、また、小中連携型地域協働学校ということで9年間一貫して、子どもの成長を支えるということを四谷地区でモデル事業を実施する予定です。

続いて家庭の教育力向上支援につきましても、ご意見を反映しております。PTA活動の充実が大切であることや、社会の変化が激しい中、保護者の考え方も多様になっていることで課題意識を持っており、家庭の教育力向上の支援として入学前プログラムや家庭教育講座、家庭教育支援セミナーを実施していきます。また、家庭教育を担う保護者同士の学びの支援として、PTA活動の支援をさせていただきます。以上のように第19期・20期の報告を教育ビジョンに反映させていただきました。以上、過去の経過を報告させていただきました。

## ○議長

ありがとうございました。これまでの経過をお話いただきました。新宿区では家庭教育と社会教育を教育支援課がともに担当しています。区によっては家庭教育と社会教育をはっきりと区分けしている区もあります。新宿区の場合はそういう意味では特殊です。

それから、一般的に学校教育行政は、明治以降や戦後から中身は大きく変わりましたが、やり方や組織機構の運営はそこまで変わってないと思います。一方、家庭教育については何が正しいのか、何やったらいいのかが家庭や地域によってかなり変わってきます。そういう意味では、何が答えかわからず、多様な答えがあり、地域の実情によって大きくやり方が変

わってくるため、提言を出しづらい側面があるということを踏まえて議論していかなければなりません。

ここまでの話について皆さん質問や意見があれば皆さんありますか。

#### ○委員

地域協働学校は四谷地域が一番古いですが、認知度はそこまで高くありません。なぜかというところ、保護者は地域協働学校が何をしているのかよくわからないということがあります。それは、例えば育成会があります、地域協働学校があります、区の事業もありますと言ったように、様々な情報がシャワーのように保護者に降ってくるからだと思います。情報がまとまっていないので区別がついていないのが現状です。これが必要、これが必要でないという受け手である保護者が判断する前に、頭がパンクしている状態ではないかと思います。みなさまは大量に来るチラシなどはご覧になっていますか。

#### ○委員

正直、私はそのイベントが子どもにとって興味ありそうなものかどうかで決めている状態です。これが育成会のイベントだから行こう、これは地域協働学校のイベントだから行こうという認識は特にはないです。地域協働学校のイベントという認識を持たずに参加しているため、地域協働学校の認知度に関するアンケートを受けても知らないという選択肢に丸を付けてしまうのかもしれない。

#### ○委員

地域によって違いはあるかもしれませんが、私が学校運営協議会の委員をしている小学校は地域協働学校のイベントというのは、週1回の朝遊びはありますが、特に他にはやっていません。それ以外は話し合いの場を設けています。落合中学校の地域協働学校にも入っていますが、9月の防災訓練の避難所開設、授業参観、地域懇談会などのほかは課題に沿った話し合いをしています。ほかに教育目標の改訂にも取り組みました。

#### ○委員

授業のお手伝い等で参加してくださいとの案内が来ることがあります。しかし、そのチラシが学校からのチラシなのかどうかかわからないことがあります。

#### ○委員

家庭科のミシンや調理は危ないので私はスクール・コーディネーターとしてお手伝いをしています。地域協働学校の会議は月1回なので、それに合わせて学校のカリキュラムがはっきりしているかというところ、やはり時期的なずれが多少あります。なので、スクール・コーディネーターが先生と話し合い、子どものお店回りなどを設定しています。

#### ○委員

小学校で図書ボランティアを現役でしていた時に、ちょうど小学校が地域協働学校を導入するというところで、それまでも図書ボランティアで花壇のお手伝いをする仕事を含めて4つくらいボランティアがありましたが、それがすべて地域協働学校の枠組みにはめられるということになったときに、今までと何が変わるのか保護者の中で何回説明されてもわか

りませんでした。確かに月1回の学校運営協議会があり、そこにだれか代表が出席するという認識しかなかったのですが、その学校運営協議会が学校とボランティア団体をつないでくれる会という認識で、よいのでしょうか。

### ○委員

学校によって学校運営協議会の委員構成が異なるため、それは様々です。町会長、消防団が所属していることや、また図書ボランティアの方が所属している学校もあります。スクール・コーディネーターはほとんどの学校で所属しています。私が学校運営協議会の委員をしている小学校であれば読み聞かせがずっと前からありますが、読み聞かせを地域協働学校の取り組みに含めるかという、特に今は含めていません。

地域協働学校を導入する時に、これもあれもと学校の学習支援や施設関係のものなどメニューが4本立てくらいあり、本来はすべてを地域協働学校に取り込むのがいいのかもしれませんが、それを1つだけ取り込もうということで、落合中学校も防災をやることにしました。今は近くにおとめ山公園があるので、おとめ山公園を生かした活動もしています。

### ○副議長

私がかかわっている地域協働学校は準備校の時に、その学校に何が必要なのかということ、1年間かけて話し合いました。そして早稲田学支援、スポーツ支援、読書支援という3つに今は重点を置いて3年間やっています。ですからイベントということではなくて、早稲田学支援は学校の授業のためのお手伝い、例えば、町探検の時に安全確認で20人ほしいとか、そのくらいの人数がいると助かるという話があると、地域の高齢者クラブとか育成会とか民生委員、あるいは人脈でいろいろな人にお話しをして人数を集めたりしています。昔の道具体験で七輪体験とかだとそれなりに体験したことがあるような方たちをピックアップして集めてきています。

読書支援は早稲田小学校の場合は児童数が多く大変とのことで、PTAの図書ボランティアの方がやっていた読み聞かせに、地域も支援しましょうということで地域の方が入っていきました。スポーツ支援は朝遊びとかスポーツテスト等を先生一人で学年全体をやるのは大変なのでお手伝いをしています。

特別なイベントを設けているわけではありません。毎月の学校運営協議会では、授業の支援を検討したり、今までやってきたものへの反省や成果とかを話し合ったり、学校の教育についての学校評価とか、地域の行事にこんなものがあるので親子で参加してほしいとか、そういうものを含めてお話を進めています。

また、地域協働学校にPTAの方は負担をかけないようにするため、なるべく誘わないという話もありましたが、PTAを外しては協働にはならない、自分たちの子どものために皆さん協力しているのだからやはりPTAも含めて、できるところは負担がない程度でPTAも参加してほしいということを私は言っております。

例えば、年間の中でこういう事業があるけど参加できますかと希望調査をして、その中で日時に合う事業に出させていただくという形でPTAにも呼び掛けています。ただそういうも

のに来ると、保護者の方はすごく負担に感じるというような、自分が子どものために参加したいけれど仕事の都合で参加できないという申し訳ないという負担を感じるらしく、なるべくそういうお手紙はないほうが良いというような感じらしいです。だからなるべく地域の方にまずは声をかけて、それで足りない場合にPTAの方に声をかけさせていただいたらどうかと言っています。

#### ○委員

保護者側からすると、それぞれの団体がどんなことをやっているのかよくわかりません。私はたまたま社会教育委員の会議のような機会があるのでわかりますが。大多数の方がそうではないと思います。

#### ○議長

地域協働学校に関心があるというのはよくわかりました。もしこれまでの社会教育委員の活動に関して何か思ったところがありましたらお聞かせください。地域協働学校のこともその他でも構いません。

#### ○委員

私は社会教育委員の会議の委員が初めてなのでよくわかりませんが、議論の内容は広く浅くでよろしいのでしょうか。例えば、いじめだったらいじめ、身障者のこととかスポット的なことではなくて、広い形で、例えば地域協働学校で社会教育について考えるのでしょうか。

#### ○議長

それはいろんな形があると思います。これまでの活動は広く浅くという包括的なテーマ設定でしたが、他のケースでは個別具体的にという場合もあります。ですので、第19・20期の活動でこういうところはもっと深く議論したほうがよいのではないかとか、ここが印象に残ったとか、ご意見ご質問がありましたら。

#### ○副議長

教育委員会に提言できるようなことに、最終的にはまとめていかないといけないのかなと思います。広く浅くでもいいですが、最終的に新宿区の教育に反映できるようなものにたどり着けなくてはなりません。2年間かけて広く浅くから深めていきたいと思うところですね。

#### ○事務局

ほかに地域協働学校で何か思うところがありますか。

#### ○委員

地域協働学校については様々なご意見が出ましたが、私が学校運営協議会の委員をしている中学校は、みなさんの学校と同じようなところをもあるし、独自の取り組みだと学校の先生と地域協働学校の委員で年3回会議をします。また、PTAの方や生徒会のお子さんとも会議をしています。それぞれ意見を出し合って進めています。ある先生がおっしゃったのは、地域協働学校は学校と地域の教育目標の共有ではないかとのことです。地域協働学校は

地域の方が委員として参加しているので、地域の意見、そしてPTAの方、生徒、それぞれが意見を出すことができます。

生徒は大人の会議に参加するとなかなか意見を出せないという部分もありますが、少人数に分かれて検討すると意見を出してくれるし、大人目線と子ども目線というところが違い、色々勉強させていただいています。

また、校長先生から時々ご連絡をいただきますが、今、学校でどういうことが行われているかというのを、地域協働学校の委員の方に見てもらうために、道徳の授業に参加して理解を深めています。学校によっていろいろなやり方があるので、一つの形はないのだと思います。ただ、教育委員会の方々に要望したいのは、地域協働学校の情報を私たちにもう少しいただくと、それを参考にして動くことができます。その手始めとして、連携した会議をやるので、またいろいろと各学校の取り組みがわかるのかなと思います。

### ○委員

地域協働学校という取り組みが、どうも独立した取り組みのような気がしていましたし、単独の取り組みのように地域の人も思っていたのかなと思います。学校の先生もわかっていないことがあって、私は透明化を図ることが大切だと思います。だから教員との3回の定例会も開催することになりました。透明化を図ることによって、いろんな人に話が伝わっていくのかと思います。だから先ほどあった道徳の授業に委員の方に参加してもらっています。子どもも情報を家庭に持って帰りますので、そういうものも通して、透明化を図っていくのが大事なのではないかなと思います。そうでないと、点としての動きにしかならないと思います。学校の問題とか課題を学校運営協議会で話をしていいと思います。個人情報もあるのでなかなか難しい部分もありますが。

### ○委員

学校運営協議会は、お便りを毎月会議が終わった後に出しています。それをホームページに掲載しています。それをまめに見ていただければ、委員会の内容がご覧いただけると思います。

### ○議長

わかりました。地域協働学校に関して成果もあり、また課題もたくさんあるというご指摘を委員の方からいただきました。

### ○委員

新宿区の住民ではないですが、地域協働学校に対する期待はすごく大きいと思います。社会教育委員の話し合いを振り返ってみると、学校の中でもすでに様々な試みがなされているのがわかりました。しかし、受け手の保護者としては、それらが、どこの管轄で、どこから情報が発信されているのかがわかりづらいとのことで、これは第19期の時にも課題としてあがってきました。

つまり、新宿区の中で様々なセクションでいろいろと頑張っていますが、受け手である保護者としては、情報はもらっているが、それがどこでやられているかもわからない。または



情報自体がきちんと届いていないということでした。それで、第19期で各事業を整理しました。発達年齢、ライフプランにおいて、どの時期に、それぞれの事業がどの意味合いを持つかということをもとめました。その中で大切な視点として、連携が必要であるという結論になりました。マイノリティである外国籍の方であったり、ハンディを持たれている方をどう支援していくか、そのためには具体的に何が必要か、どういうことができるかということを検討しました。その結果、学校や地域協働学校の連携が重要だということに戻ってきました。保護者・学校・地域すべてを含めて、各事業の意味などの情報と目的の共有化をしながらやっていくことが大切ではないかと思います。

#### ○議長

ありがとうございました。

#### ○副議長

情報は、イベントの中身は見えますが、どこが主催するかということは案外見落としがままです。だからそれぞれにやっているところがかめないという部分があると思います。

#### ○委員

保護者が細かい文章を読まないのはすごく感じます。

#### ○副議長

それから学校がよくおっしゃいますが、子どもたちへの印刷物が多すぎるということ、そして先生もそれを配らなきゃいけない負担もあります。保護者もお子さんがたくさん持ってきたものに目を通さなければいけない負担もあります。なので、なるべく印刷物は少なくしてほしいという要望が地域協働学校の中でもあって、育成会が何かイベントするときには、1つのイベントに1枚ではなくて、近々にあるイベントを1つの紙に盛り込んで、なるべく配布物を少なくするような努力し、無駄なプリントはまかないようにしています。

#### ○委員

親が多様化してきているので、それに合わせて区が色々やってくれるけども、自分が必要だけどこれは必要ないというような情報がわからず、情報量だけが増えているので、これはこのような内容の情報ですといったように全体で統一されているとわかりやすいと思います。例えば青色のフレームだとこれですとか、赤だとこれですとかあるとわかりやすいと思います。昔はみんなが同じ悩みを抱えていたのでよかったことが、多様化している現代ではうまくいかないと思います。

#### ○議長

わかりました。今、委員の方全員のお話を聞かせていただいて、地域協働学校というのは新宿区ならではのもので、すごくいいアイデアでもっともっと進めていくべきだと思いますが、必要な情報が整理されてないとか、あるいは伝わってないという問題があるというお話をいただきましたので、今期の議論のテーマはここに絞りたいなと思います。

地域協働学校は各地区で抱えている問題も違うでしょうけども、それを掘り起こすとともに、たくさんの地域の方に協力をしてもらって、子ども・先生・PTAが一緒になって教

育をいいものにしていくことが大事なことだと思います。そこに焦点を絞って、21期の議論を進めていきたいと思います。

#### ○委員

ちなみに、私が学校運営協議会の委員をしている小学校で認知度調査をしてみました。400人中の200人いかないくらいの人数で調査しましたが、地域協働学校の認知度が38%でした。スマイルクラブは66%で、育成会は34%、小P連は54%、地域のスポーツ文化協議会が24%、すぽっこというスポーツ交流推進委員会は18%というほぼ半分いかないうのが事実です。例えば入学式の時に地域協働学校の会長に来ていただいて挨拶してもらうとか、とにかく顔だけでも覚えてもらうように顔写真を出すようにするとかということで動いていくことが大切だと思います。

#### ○委員

オレンジは育成会カラーで、手紙はすべてオレンジで配布しています。そうすればかなり濃い色なので、育成会だとすぐわかります。いろいろ工夫して地域協働学校の人にも、朝礼の時に少し挨拶をするとか、いろんな場面で活動しています。そうやって顔を覚えていただくという発信の仕方もいいかなと思います。

#### ○副議長

育成会は100万円近くの助成金が出ていますから、オレンジカラーでチラシを出せますが、財源が少ない場合は白黒ペーパーになってしまいます。

#### ○委員

保護者の立場からすると、保護者のニーズを知らないままに情報提供をされている気がします。昔はPTAから要望していたが、だんだん時代の変化とともにやっていることは同じでも保護者の方が変わってきている面が最近あります。

#### ○委員

例えば、小学校、中学校のところに青少年活動推進員、地区青少年育成委員会、ジュニアリーダー、子どもクラブとこれだけのかかわりがある。そうするとなかなか意思の疎通が取れません。育成会とPTAで話し合って、PTAができないことを育成会がするのが1番地域としてまとまっていけるのかなという気がします。ただその中でも育成会独自のものは出さないといけないというところはあると思います。特に四谷の場合は、ピーポー110番に力を入れています。これはPTAにも協力してもらっています。

#### ○委員

PTAができないことをやってほしいという話になった時に、何ができないかと聞いたら、1つは防犯・安全という話になりました。自分たちも会社に行っているし、地震とかあったときに自分たちは何もできないので、地域の人をお願いしたいと。あと挨拶とか、結局、人間的な深みを出すのは親だけだとできないので、そういうのをお願いしたいという話が出ました。

#### ○委員

今年は、狂言のイベントを育成会でやらせていただきましたが、非常にいいことだと思います。PTAと育成会は意思の疎通を密にしてやっていかなければと思います。なかなか難しいところも出てくるとは思いますが、なるべく地域が1つになって子どものために頑張っていけばいいのかなど。しかし、地域協働学校は先生の負担を増やしてしまうところも出てきてしまうのではないかとということもあり、ただでさえ学校の先生は大変なので、どうしたらいいかと考えています。

#### ○委員

学校が地域の方に丸投げできれば楽ですよ。学校が逐一指示しなければいけないとなってくるとすごく大変なので。

#### ○委員

例えば地域協働学校でこういうことをやりたいという場合に、学校の先生が動かないとなると、本末転倒な気がします。どこまでのことをやればいいのか、やりすぎてもよくないのかとか考えてしまいます。

#### ○議長

学校によっては、2〜3年経てばルーティン化して先生の負担は減っていくというような話もあります。

#### ○委員

最初にルールに乗るまでが大変です。他の学校ではこのようにしているということを経験できれば楽になるのではないのでしょうか。

#### ○副議長

早稲田学支援の場合は、何月くらいにはこういう支援をやってほしいというのを基本的にいただいています。早稲田学支援が始まって最初は何をお願いしていいか学校側もよくわからない、こちらをお願いされてもどのようにしたらいいかわからないという状態でした。3年実施してようやくまとまってきたというか、こちらも依頼されたことを地域に返していくときに、高齢者クラブをお願いする場合は代表の方にお手紙を出して、どういうことをお願いして何人お願いしたいか、いつまでにご報告いただきたいってことを連絡します。

#### ○委員

地区協議会も最初は、地区協議会があつて町会・育成会があるというような説明だったので、それに対する反発がありました。地区協議会は10年、育成会は何十年、町会も60〜70年の歴史があります。地域によって地区協議会の立場が本当に独立している感じのところもあれば、そうでないところもあります。地域によってかなり違うと思います。中には安心安全とか、環境とか、子育てとか、高齢者とか、部門ありますが、これから3・4月で助成制度の形が変わるので、どういう動きになるのか。

#### ○委員

例えば普通の保護者が育成会に入りたいと思ったらどう行動するのでしょうか。

#### ○副議長

育成会は地区によってはすべて規約があります。町会推薦とか、P T Aから何名出してくださいますか。本来だったらボランティアで誰でも手挙げ方式で参加できるのがいいと思うのですが、育成会が出来た当初の規約になんとか縛られてずっと進んできています。しかし、子どものために何とか協力したいという方が手挙げ方式で出てくるのが一番いいことです。規約の改正をしていくことも必要だと思います。

#### ○委員

保護者がかかわりたい時にかかわれる場が意外にP T A以外にはないという感じがあります。四谷はさっきのスマイルクラブで黄色いカードを作ってアピールしています。

#### ○委員

あと地域センターの管理運営委員も公募ですね。育成会の場合だったら、私が学校運営協議会の委員をしている小学校は校外委員というのがあり、そこに入って育成会担当などの担当がありますので、そういうところに手を挙げれば、積極的にかかわろうとすればかかわれます。

#### ○委員

みなさんは町会入っていますか。

#### ○委員

マンションに暮らしていて、マンションが建った際に住民は町会に入らないということになったので入っていないです。でも、地域のお祭りに参加することに躊躇します。町会の方はお祭りに来てもいいですよと言ってくれますが。新宿子育てメッセで、町会の方とかかわるようになって、お祭りなどに行きやすくなりました。

#### ○議長

ありがとうございました。どういうテーマにしようかというところで、どういう方向で議論進めたらいいのかというところで、事務局から経緯を説明していただいて、皆さんの問題や関心を出していただきましたが、地域協働学校に対しての思いや課題意識を持っていらっしゃるということで、地域協働学校への支援の輪を広げるという形で、21期は議論していきたいと思います。

例えば、P T Aの問題とか地域の団体の問題とか、そこまで掘り下げないとこの問題は解決できないと思うので、単に情報が届かないだけでなく、なぜ届いてないのかという点では、いろいろな問題があると思います。そういうものを明らかにしていければなと考えています。

では、事務局からの事務連絡をお願いします。

### 6 事務局から事務連絡

### 7 閉会の挨拶

#### ○副議長

みなさん、本日はお疲れ様でございました。

21 期の進むべき方向もある程度目処がついたかと思しますので、よろしくご協力いただきたいと思ひます。新宿区の教育を考へる中でも、やはり子どもたちの子育てというものに重きに置いて、どういふ子どもたちに育てほしいかなという古い考へでいつもそんなことを思っています。どうぞこれからも皆さんのご協力によつて、新宿区の子どもたちが心豊かに、生きる力を育めるように育ていけるようご協力お願いしたいと思ひます。本当にありがとうございました。